

新潟県内の助産師の就業数と就業場所、年齢構成の動向

—戦後から今日まで—

キーワード：新潟県、助産師、就業数、就業場所、年齢構成

○小林美代子¹⁾、渡邊典子¹⁾、小林正子¹⁾、河内浩美¹⁾、久保田美雪¹⁾

新潟青陵大学¹⁾

I. 目的

近年、新潟県も人口の減少や少子・高齢化が進み、少子化対策が急務となっている。しかし、支援者である助産師が、周産期に関連した業務に従事せず潜在助産師として存在することも判明している¹⁾。

そこで、新潟県内の助産師の就業数と就業場所、年齢構成の動向を明らかにすることを目的に研究を行った。

II. 方法

文献研究。昭和25年以降の人口動態調査、新潟県統計年鑑、新潟県福祉年報、看護関係者の現況から検討した。調査期間は2012（平成24）年12月。

III. 結果

<助産師数>1950（昭和25）年の助産師数は1978人であった。その後、1970（昭和45）年には995人と1000人を切り、2006（平成18）年671人まではほぼ一貫して減少傾向にあった。中でも大幅に減少したのは、1962（昭和37）年116人減、1967（昭和42）年241人減、2006（平成18）年82人減であった。その後、増加し2010（平成22）年は763人であった。

<就業場所>就業場所別就業数は、1952（昭和27）年、助産所が1854人、病院42人、診療所17人であった。その後、助産所は減少を続け1990（平成2）年には365人となり、病院388人、診療所32人と施設の就業数が助産所を上回った。その後も助産所は減少し2006（平成18）年には98人となった。一方の施設就業数は増加していたが、この年、病院398人と前年度より61人減少し、診療所は136人と24人増加した。2010（平成22）年、助産所93人、病院466人、診療所151人であった。

<年齢構成>助産師は他の看護職に比べ60歳以上の割合が高い。1972（昭和47）年～1986（昭和61）年にかけて60歳以上の割合が約40～50%に増加した後、減少に転じ2010（平成22）年は10%以下になった。30歳代の就業は、1972（昭和47）年～1984（昭和59）年は7%以下であったが、その後1985（昭和60）年代から平成にかけて増加し、2010（平成22）年では27.1%と大きく増加した。40歳代の就業は、1972（昭和47）年では19.8%であったが、その後減少し、1986（昭和61）年では6.2%となったが、2010（平成22）年には27.1%となった。年代構成は均等化してきている。ただ、助産所は2008（平成20）年で45%が60歳以上であった。

IV. 考察

県内の助産師数は、2006（平成18）年まで一貫して減少していた。特に減少数が多かった1962（昭和37）年から1967（昭和42）年頃は、それまで大半を占めていた自宅分娩が急速に減少し、自宅や助産所を含んだ出生数が半数から1/4と減少した時期と重なり合う。助産所就業者数が大きく減少したことから、原因として出生数の減少だけでなく、分娩場所の変化が影響したと考えられる。また、2006（平成18）年は、診療所以外の就業者数が減少した。2006（平成18）年の診療報酬改定（入院患者7人に対して看護師1人を配置したときの診療報酬が増額された）や分娩施設の統廃合による減少を機に、病院で看護業務に専従する助産師や、病院や助産所から助産に関わる診療所への移籍、退職など多様な対応がされた可能性がある。2008（平成20）年以降の助産師数の増加は、再就職や他県からの転入も考えられるが、助産師養成数の増加が影響した可能性がある。県内の養成施設は、戦後から1997（平成9）年まで1施設で養成数20人程度と少なかった。その後、変動はあったものの、2010（平成22）年には養成施設数、養成数とも4施設、40人程度と増加したことが影響していると考えられる。

就業場所は、分娩場所の変化にともない病院・診療所が増加し8割を占めている。ただ、2010（平成22）年の病院と診療所での出生数がほぼ同じであるのに対し、診療所の助産師数は病院の約1/3であった。助産師の配置基準はないが、就業の偏在が起きていると考えられる。

また、年齢構成は均等化してきており、養成数やライフワークバランスの意識や環境、就業場所の変化が影響していると考えられる。ただ、助産所就業の多くは訪問助産師で、その40%が60歳以上であり、現状のままでは、今後の地域母子保健の人材不足が懸念される。

V. 結論

1. 県内の助産師数は戦後減少していたが、2008年よりやや増加している。2. 出生数は病院と診療所ではほぼ半々であるが、就業する助産師は診療所が病院の約1/3となっている。3. 助産所に就業する助産師（開業助産師）の45%が60歳以上であった。

1) 久保田美雪ら. 新潟県における病院に勤務する助産師の就労状況に関する調査. 母性衛生, 2014;54(4):638.